



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1936, 16(179): 189-192

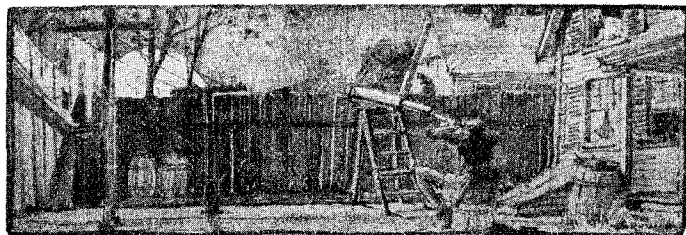
ISSUE DATE:

1936-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167175>

RIGHT:



東亞天文協會觀測部月報

黃道光課報告 (10, 11月分)

オーストラリアとの國際同時觀測、國際天文同盟の總會で黃道光課を新設され、光榮ある中央局を吾等の花山へむかへるなど黃道光課にとつて、誠に多幸であつた1935年を送り、此處に新しく1936年を迎へ、大いに黃道光天文學建設を目指して一大飛躍をなすべく努力致しませう。

× × ×

觀測者及觀測數

觀測者	觀測地	10月	回數	11月	回數	對日照 (10月)	回數	11月	回數
廣瀬永治郎	岐阜縣美濃町	5, 6, 7, 9, 29, 30	6	(17), (20), (27)	3				
寺町忠行	愛知縣豐山	5, 6, 8, 10, 30	5	24	1			2	1
笹野榮一	大阪府池田町	(21)	1						
本田 實	鳥取縣八東村	7, 10, 29	3	8, (17), (18)	3	21, 23	2		
權 泰 熾	朝鮮忠清北道	28	1						
富原守清	米院面米院里 沖繩縣首里市	2, 10,	2	(23)	1				

(上表中數字に括弧のあるは西天觀測日である)。

10 月

東天の最盛期とでも云ふべき月で大部分東天であるが、只笹部氏の1回が西天である。5日までは日濠同時觀測のうちで、寺町氏の5日と廣瀬の5日が各々3^h30^mで同時であるのみである。兩者の觀測を比較してみると、中心線は大體同じ位置で寺町氏は稍々細長く、廣瀬は幅廣く銀河を越へて Band (對日照まで續く) を見てゐる。明るさは寺町氏は明るく一角獸銀河の3倍半、廣瀬は馭者銀河の2倍と見、色も寺町氏 BW, 廣瀬は W である。他は皆普通

の觀測であるが月の關係上東天は上旬と下旬に集中してゐる。

上旬は Leo, Cancer, Gemini を背景に頂點は皆 Gemini 中にある。明るさも各々一角獸銀河の3倍或は馭者銀河の3倍で10月としては普通の明るさと思はれる。中心線は皆稍々南傾してゐる。地平線近くに明るい金星が輝き相當に觀測を妨害してゐる。

下旬は Leo, Cancer を背景に、頂點は大體 Leo の西端近くにあり、上旬と同じく稍々南傾をしてゐる。明るさは上旬より稍々淡く一角獸銀河の2倍程である。頂點は銀河をはなれて見易くなつてゐる。

宵の西天は笹部氏の21日 20^h00^m の1個で地平線に大變に傾いてゐる。明るさは非常に淡く、かろうじて見られたものの様である。

11 月

東天は都合悪く只2個のみの不成績に終つてしまつた事は残念である。本田氏が上旬で、寺町氏は下旬である。本田氏は Leo, Cancer を背景に非常に曲りくねつた不規則光斑と共に見てゐられ、中心線は稍々北へより南へ幾分傾いてゐる。明るさは一角獸銀河と同じ程の明るさで大變に淡い様である。寺町氏は Virgo, Leo を背景にして、尙短い Band を Cancer まで見てゐる。途中から幅がぐつと廣くなつた二段式と云つた様に見てゐられる。明るさは明るく一角獸銀河の3倍で、中心線は大體黃道上にある。

西天は中旬よりずつと月末近くまで見えてゐる。まだほんの先驅であるが、大體 Capricornus, Aquarius を背景に明るさ淡くとかけセフェ兩座の中間の銀河と同じ程である。廣瀬と本田氏は Pisces 中に頂點より Band を見てゐる。尙17日の本田氏は中心線が 11° も南へ傾いてゐる。

對日照

10月は21日と23日の兩夜本田氏が 23^h 00^m を期して見て居られる。Pisces と Aries との境附近に中心點を置き東西に稍々細長く伸びてゐる。明るさは白鳥銀河の半分程で23日には東西へ Band が見えて居る。

11月は2日の夜半すぎに寺町氏が1個得て居られる。Aries 中に中心點もち、稍々卵形、明るさは一角獸銀河の半分、Band は東西に伸びて居る。

(廣 瀬)

本年度黃道光觀測日時豫報

幹事 淺野英之助

曙 東 天					宵 西 天			
月	日	時	刻	比較銀河	日	時	刻	比較銀河
2	1—5	5 ^b	00 ^m	○	9—24	19 ^b	10 ^m	A
	21—29	4	40					
3	1—5	4	30		10—25	19	40	A
	21—31	4	00	C				
4	1—4	3	50		9—24	20	10	M
	20—30	3	10	C				
5	1—4	3	00		9—23	20	40	M
	19—31	2	40	C				
6	1—2	2	30		8—22	21	10	○
	18—30	2	30	LC				
7	1—2	2	30		8—22	21	00	C
	17—31	2	50	LC				
8	1	3	00		7—21	20	30	C
	16—31	3	20	A				
9	15—29	3	50	A	5—19	19	45	C
10	14—28	4	10	M	4—18	19	00	C
11	13—27	4	40	M	2—16	18	30	LC
12	13—26	5	00	M	1—16	18	20	LC
					30—31	18	30	

(Time.....J. C. S. T.)

●遊星.....2, 3月頃東天には地平線近く金星, 天頂近く木星が未だ見てゐるが、やがて東天を去り9月頃より西天に廻り木星は天頂より金星は地平線より現れ始める。

附記——上表の觀測可能日は、主として月光の妨げを考慮したものであつて、時刻は一般觀測の好時刻として西天は薄明直後の頃、東天は薄明前 20—30^m の頃の大體の時刻を參考迄に示したものである。總て年鑑により花山天文臺を中心としての數値であるから、京阪神附近より遠く距るに従つて時刻は適當に修正されたい。

日濠國際同時觀測日時

1935—1936年		東 天		西 天	
9月7日—10月5日	日本	3 00	濠洲 4 00	日本	20 00 濠洲 21 00
12月7日—1月4日	„	2 35	„ 3 35	„	19 50 „ 20 50
● 3月7日—4月4日	„	3 30	„ 4 30	„	20 00 „ 21 00
● 6月7日—7月4日	„	2 30	„ 3 30	„	21 20 „ 22 20

× × ×

對 日 照

2 月 中 旬—月 末	4 月 中 旬—下 旬	10 月 中 旬—下 旬
3 月 中 旬—下 旬	9 月 中 旬—下 旬	11 月 中 旬

上記の期間が深夜觀測可能であつて、1月、6月、7月、12月は銀河のため、5月と8月は低空のために觀測不可能であらう。(1936, I, 16 記)

太陽課 黑點相對數報告 (1936年一月)

觀測者(觀測地)	松本(臺灣臺中高女)	渡邊(大分縣杵築)	日野(松山師範學校)	久保(高知高等學校)	改發(神戸市須磨區)	荏部(神戸市灘區)	伊達(兵庫縣雲雀丘)	佐々(大阪市岡中學)	前田(京都市下京區)	木邊(滋賀縣中里村)	尾崎(津市上濱町)	沓掛(長野縣青木村)	清水(靜岡縣島田町)	大石(靜岡)	森久保(神奈川縣及川)	淺居(橫濱保土谷區)	菊池(岩手縣水澤町)
鏡徑耗	58	41	98	75	150	75	80	110	70	75	30	102	100	45	58	58	50
倍率	40	55	69	53	68	77	70	92	40	60	50	75	73	60	60	60	50
1	曇	134	休	84	欠	98	88	休	62	103	89	121	忙	71	113	126	欠
2	81	曇	”	曇	曇	旅	曇	”	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨	曇	曇
3	76	”	”	”	”	57	57	”	66	89	57	89	曇	53	雨	85	”
4	雨	67	”	53	87	77	55	”	73	52	70	83	60	52	忙	70	”
5	曇	”	”	55	84	78	60	”	53	欠	66	84	79	50	”	旅	”
6	”	”	”	56	78	82	60	”	64	曇	64	曇	62	52	”	”	”
7	55	33	”	曇	77	46	63	”	57	43	53	68	47	24	41	”	”
8	41	53	病	34	50	42	51	43	29	69	43	31	85	24	27	忙	”
9	33	曇	曇	31	曇	36	曇	曇	28	44	31	42	曇	27	29	”	”
10	29	39	曇	28	42	44	60	曇	29	39	31	42	忙	28	28	”	”
11	43	曇	”	42	曇	34	曇	曇	曇	曇	曇	47	”	50	曇	33	”
12	51	56	”	40	48	51	55	曇	49	53	48	47	”	58	曇	曇	”
13	59	60	56	41	61	58	曇	曇	56	63	60	曇	”	58	56	欠	”
14	88	67	忙	61	80	62	66	曇	60	91	60	曇	”	58	57	忙	”
15	64	曇	曇	49	64	74	忙	曇	51	73	77	曇	”	曇	忙	60	”
16	曇	85	”	61	59	66	78	”	56	71	”	”	”	58	58	”	”
17	82	”	64	61	欠	75	80	53	77	75	66	”	病	58	64	64	”
18	曇	93	64	78	”	欠	忙	47	70	84	75	”	”	62	89	76	”
19	84	85	曇	73	91	92	77	休	72	欠	75	97	”	62	欠	93	”
20	86	101	66	75	83	77	105	59	76	93	78	曇	”	62	欠	98	”
21	122	雨	雪	54	100	126	124	109	71	122	86	143	”	83	118	欠	100
22	雨	”	”	80	78	126	99	58	77	86	87	曇	”	76	欠	107	”
23	114	曇	”	92	89	欠	112	曇	83	103	曇	115	”	80	101	95	”
24	130	”	曇	86	132	99	119	”	曇	155	87	128	”	75	121	112	”
25	92	”	”	103	雨	99	雨	”	曇	雨	雪	雪	”	雨	雪	雪	”
26	曇	82	曇	病	109	曇	90	休	36	欠	98	95	77	48	66	欠	”
27	57	曇	54	83	60	69	69	45	40	80	61	54	69	41	62	”	”
28	62	”	曇	63	67	61	74	欠	曇	101	67	53	69	49	忙	”	”
29	雨	55	曇	55	65	99	76	曇	雨	雨	53	曇	70	50	欠	”	”
30	43	雪	曇	29	欠	28	54	欠	25	69	41	”	忙	31	37	”	”
31	曇	37	”	38	55	50	37	39	38	82	曇	”	43	欠	36	”	”
日數	21	15	11	27	22	28	24	9	24	25	23	17	12	25	19	13	15
平均	71	64	62	60	86	70	75	49	54	79	64	82	64	57	41	83	71

●清水氏の寫眞觀測の日は斜體で示してあります。以上の外14日と30日とにも行はれてゐます。●木邊氏と沓掛氏とは黑點群の大體の緯度を調べて居られます。●尾崎氏は黑點群を5種の型式にわけて居られます。●日野氏からは8枚のスケッチが來ました。●名古屋郵便局の小關勇氏から去年10月23日—12月6日の太陽寫眞8枚を戴きました。●前月號報告の十一月分とあるのは勿論十二月分の誤。